

令和4年度教育事業 ぼうさいトレーニングキャンプ

1. ねらい

- ① 不自由な生活体験を提供し、非常時における生活のシミュレーションをする
- ② へこたれない力（レジリエンス能力）を育てる
- ③ 自主的、自発的な学びの力を育む

2. 実施日

令和5年1月28日(土)～29日(日) 1泊2日

3. 対象者

小学校3～6年生

4. 参加者 / 申込人数

21名 / 20名

5. 講師

大西 琢也 氏

(NPO法人森の遊学舎代表理事、防災士)

6. プログラム (要約)

自然の家に滞在していたところ、大地震が起こり、もう一泊を自然の家のプレイホールで過ごさなければならなくなったという設定で、シミュレーションを開始した。

プレイホールにテントを設営し、各個人の寝床を作り、支給された段ボールや倉庫にある備品をうまく活用し、防寒対策も施した。

リアルさを増すために、参加者の中からボランティアを募集し、避難所の自主運営にも意識が向くような試みも行った。6名の参加者が立候補し、ミーティングや進行を自主的に進めていった。

時間の過ごし方も含めて、自分たちで考え、自分たちで話し合い、仲間どうしでうまくコミュニケーションをとりながら進められた。

スケジュール

28日(土)	はじまりの会 オリエンテーション(ねらいの説明) 昼食(食堂) 避難生活シミュレーション開始 ・テント設営(寝床づくり) ・防災野外炊事(夕食) 就寝
29日(日)	起床 防災野外炊事(朝食) 寝床づくりふりかえり・片付け 防災ワークショップ 昼食(食堂) 終わりの会

1月28日(土)【1日目】

前日に降雪があり、防寒も心配される中でキャンプが始まった。オリエンテーションでは、イラストを使い今の気持ちを自分でしっかりとらえ、お互いに紹介しあってコミュニケーションを取るなど徐々に声を掛け合える雰囲気ができてきた。今回のねらいが伝えられると、楽しく学ぼうという雰囲気になっていった。



昼食後さっそく、自分たちがひと晩過ごす寝床づくりを行った。寒さをどうしのぐかがテーマ。使える物品に制限はあるけれど、倉庫の中にある物も自由に使ってよいと言われたあたりから、子どもたちの独創性が発揮される寝床づくりとなった。

段ボールやスポーツ用具を活用してできた寝床はとても立派で、避難生活を少しでも工夫しようという気持ちが見て取れた。途中で講師が声をかけ、全員でテントを見回った。工夫すべきポイントなどを講師がアドバイスした。



夕食は一人で火をおこし、空き缶を使ってご飯を炊く実習を実施。雪も降る中、とても寒い状況で行われたが、周りとの声を掛け合い、助け合いながら、ご飯を炊き上げた。達成感があったようで、あたたかいご飯を作ることがこんなに大変なんだとの思いを持ちつつ、食事をしていたようだ。



その後は、寒い日だったこともあり早めにテントに入って就寝までの時間を過ごした。



1月29日(日)【2日目】

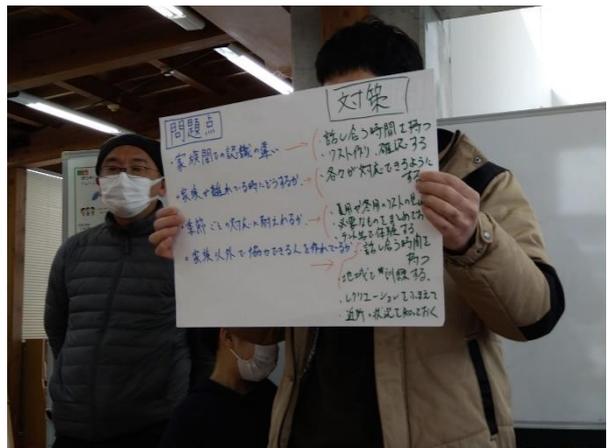
さみしくなってしまった参加者もいたが、何とか夜を過ごし無事に朝を迎えた。朝食は牛乳パックを使って、ホットドッグを焼いた。ボランティアたちが積極的にリードし、配給された食材を自分たちで調理した。「自分でやる」という意識が身についてきたようだ。

朝食を終えて、避難生活シミュレーションは終了。片づけをして、ふりかえりの時間とした。ここから保護者も参加し、ひと晩過ごしたテントの様子を一緒に見て振り返った。



何人かで話し合ったのち、感想を述べた。「暖かく過ごすにはとっても工夫がいる。」「食べ物があるってとても大切」「電気や水道が普通に使えることってありがたい。」という声が聞かれた。保護者グループも話し合い、「家族で災害の時はどうするか、あらかじめ決めておくことが大事」というコメントもあった。

講師からの、「自分が助かるのはまず最優先で、その次に誰かの力になれるようになってほしい」という話が印象的であった。



7. 保護者アンケートから

電気、ガス、水道はふだん当たり前に使っていたけど、キャンプから帰ってきたらそのありがたみに気づき、なるべく節約しようという気になったようです。災害が起きたらどこに避難しようか、どんな備えが必要か、参加する前とずいぶん意識が変わりました。

8. まとめ

災害は不意にやってくる。普段から自分自身で考え、判断できる力を身につけておけば、災害が来ても慌てず対応できると思う。備えておけば、それに対応した行動がとれるようになって考えている。

このキャンプの体験はきっかけづくり。家族で「防災」の意識を共有し、不意の時に備えられるようになったらと思う。広域防災補完拠点として、人材育成の立場から今後どう取組みを進めるか、研修支援プログラムへ反映させるなどをより進めていきたい。

(企画指導専門職 高瀬 宏樹)